

5 学校再編統合の必要性

学校では、より専門的な教科指導によって基礎的な知識や技能を効果的に習得させるとともに、児童生徒が集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になります。このことから一定規模の児童生徒の集団が確保されていることや経験年数や専門性などバランスのとれた教職員が配置されていることが望ましく、そのためには小・中学校では一定の学校規模を確保することが重要になります。

本市においても、児童生徒数が減少している状況を踏まえ、地域の実情に応じた学校規模の適正化を進める必要があります。

学校再編のメリット・デメリット

	小規模校		適正規模校 の 特 徴
	出来ること (メリット)	工夫が必要 (デメリット)	
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ○児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 ○学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集団の中で、多様な考え方に触れる機会や切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。 ○学級間の相互啓発がなされにくい。 ○運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動、部活動等に制約が生じやすい。 ○中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。 ○多様な学習・指導形態を取りにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。 ○運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすく、部活動等の選択の幅が広がりやすい。 ○中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい。 ○多様な学習・指導形態を取りやすい。
生活面	<ul style="list-style-type: none"> ○児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい。 ○異学年間の縦の交流が生まれやすい。 ○児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人間関係が固定化しやすい。 ○集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。 ○切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。 ○組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。 ○切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。 ○学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。
学校運営面・財政面	<ul style="list-style-type: none"> ○全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。 ○学校が一体となって活動しやすい。 ○施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いにくい。 ○学年別や教科別の教職員同士で、学習指導についての相談等が行いにくい。 ○一人に複数の校務分掌が集中しやすい。 ○教員の出張等の調整が難しくなりやすい。 ○子ども一人あたりにかかる経費が大きくなりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。 ○学年別や教科別の教職員同士で、学習指導についての相談等が行いやすい。 ○校務分掌を組織的に行きやすい。 ○出張等に参加しやすい。 ○子ども一人あたりにかかる経費が少なくなりやすい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者や地域社会との連携が図りやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。

参考資料：文部科学省HP 中央教育審議会・初等中等教育分科会「小中学校の設置・運営の在り方に関する作業部会（第8回）」資料（2008年12月）

※国・県：小・中学校ともに12学級以上18学級以下を学校規模の標準としている。